

～この人を見よ～

た ざわ よし はる
田澤義鋪



画／藤原良二

財団法人 田澤義鋪記念会

もくじ

- 第1回 生い立ち
- 第2回 青年郡長の理想と実践
- 第3回 政治教育運動
- 第4回 理想選挙を戦う
- 第5回 立憲人の完成
- 第6回 虚空に矢を射る

この絵本は、(財)明るい選挙推進協会発刊の『私たちの広場』2009年5月306～0年2010年3月311号に掲載されたものです。

田澤先生の政治教育運動は、明るい選挙推進運動に受け継がれています。今回田澤先生生誕125周年記念事業の一環として、協会のご好意により転載させていただきました。

(財)明るい選挙推進協会ホームページ

<http://www.akaruisenkyo.or.jp>

(財)田澤義鋪記念会とは

財団法人田澤義鋪記念会は、1952(昭和27)年12月に設立されました。目的は、田澤義鋪の残した民主的平和的な社会教育上の精神と業績を伝え、これの実現に努めるとともに、故人が理想として追求した“道義国家の建設”に寄与することにあります。

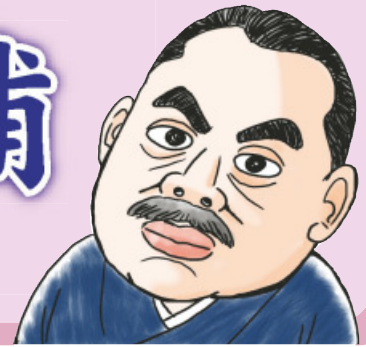
当財団は、毎年秋に故人を偲ぶ記念会を開催するとともに、下村湖人による田澤義鋪伝、田澤義鋪選集の刊行と普及、映画の製作、青年団を育成するために田澤賞の制定など、目的遂行のための諸事業を行っています。

～この人を見よ～

田澤義鋪

第1回 生い立ち

画／藤原良二



明治以降で
真に尊敬に
値する人物を
3人あげよと
言われるなら
は……

福沢諭吉、
新渡戸稲造……

そして特に
田澤義鋪を
上げる

誠実さ、確乎として
信念を貫いた生涯、毅然たる清節。
私は百代にわたって「この人を見よ」と
言いたい!

下村湖人

*下村湖人(1884〜1955年) : 『次郎物語』の著者。田澤とは高校、大学と同窓。

父上が毎朝
漢学や歴史は
教えて下さる
です!

旧鹿島藩士で
文房具店を営む
父・義陳
聡明な母・みす
後に東京女子高等
師範学校に進む
8歳年上の姉・ふみ
の四大家族であった



義鋪は1885年(明治18年)
佐賀県鹿島村(現鹿島市)で生まれた

義舗の体は小さかったが
 学業は進み 数え5歳で
 小学校に入学した



お世継ぎの学友に
 選ばれたとぞす

うれしかー

鍋島直彬

父が仕えた旧鹿島藩主で
 英君と謳われた鍋島直彬は
 旧藩士の子弟の教育に
 力を注いだ



15歳の夏
 鹿島中学の同級生ら5人で
 学生会のボートに乗り
 長崎遠征に挑戦するも
 途中嵐でボートが破損
 頓挫



代表して
 学生に陳謝したが
 それがいっつか
 大冒険の体験談となり
 拍手喝采で終え
 後年の雄弁さの
 片鱗が示された



17歳の秋 熊本
 の
 第五高等学校
 *
 第一部に入学

酒は飲ま
 ん
 とぞす!



学生の飲酒の悪弊を憂う
 校長の禁酒令のもと
 五高最初の禁酒宣誓者の
 一人として入学した

ボート部に入部
 一年生で正選手となる



*第一部は法文科 二部は工農科 三部は医科

3年生の時
三部対抗ボートレースに
第一部のリーダーとして
臨み 勝利に導いたが



その祝勝会で
酒を飲み
退学処分を
受けてしまう



*しかし
同級生たちが
処分取り消しに
奔走し 来期から
復学が認められた



以降卒業まで
一切酒を口に
しなかった

ありがとう
みんな!



*同級生を中心に盟友となる、後の農林大臣、後藤文夫がいた

21歳東京帝国大学に進み
政治学を専攻の傍ら
直彬が起こした育英会で活動し
郷土の先輩の信頼と
同輩 後輩の敬愛を得た

育英会



ぼっこん
偏狭な地方的感情で
小さな団結を固くして
他との対立意識を
助長したらいかんばい!

1909年(明治42年)
卒業前に満州と朝鮮を旅行し
日露戦争勝利を笠に着た
日本人の傲慢さと*苦力に対する
非人道的扱いに衝撃を受けた



道義なくして
何の国家だ!!

この国民性を
人類的、世界的
視野に立て

政治と教育
によって直すことが
必要だ!!

*苦力(クーリ)：東南アジア諸地域の肉体労働者

～この人を見よ～

た ざわ よし はる
田澤義鋪



第2回 青年郡長の理想と実践

画／藤原良二



*安倍郡は、現在の静岡市などにあたる。



* 郡は、府県と町村の中間の地方公共団体。1873年（明治6年）に郡制が復活し郡長（官選）が置かれ、90年に郡参事会（郡役所）と郡会が設置された。郡会は1923年（大正12年）に、郡長と郡役所が26年に廃止された。

そのため 安倍郡内
24町村の青年会の
活性化を図ることとし
郡の連合青年団を
組織した



自らも
夜間に自転車で
各校を回り
青年たちを励まし
講義を行った



また
勤労青年に対する
補習教育の充実を図り
青年団員の出席を
奨励した



その結果……

政治をよくして
いかなくは
日本はよくな
らない!

政治をよくして
いくには選挙で
ある!

それには
青年たちが
政治の道義と
知識を身に
つけることだ!

……と
大学で学んだ政治学を
実際に生かすことだと
考えるようになった



1914年(大正3年)
19歳〜26歳の青年25人を選抜し
千代田村の連永寺で一週間共同で
生活する研修会を開催
公民教育 農事改良の講座のほか
自主研究も行った

寄付金70円を
郡のために有効に
使う方法を考え
競いあいなさい



今でこそ宿泊研修は珍しくないが
その内容も方法も日本の社会教育
史上画期的な取り組みであった

次に義鋪は一般の青年たちを対象に三保の松原にテントを張り講演よりも懇談を主とした2泊3日の講習会を企画した

熱意と真実をもって青年たちに接すれば得られるものも大きいのだ!!

講師には成蹊学園創立者の中村春二もいた

1914年 安倍郡を離れ静岡県庁に移った



1915年には明治神宮造営局総務課長に任ぜられる

造営は国民的の大事業である!

それでも試験的に安倍郡の青年団に支援を頼んだところ彼らの仕事振りはすばらしく全国の青年団に勤労奉仕を呼びかけることとなった

しかし第二次世界大戦の影響で物価が暴騰して工費が不足したばかりか労力も不足している...

やむを得ず青年の勤労奉仕で乗り切ろうと思うが.....

ダメだ! 素人は役に立たない!! 反対!と技師たちから猛反対された

1920年 神宮造営は一万五千人の青年たちの力を借りて完成した



～この人を見よ～

た ざわ よし はる
田澤義鋪



第3回 政治教育運動

画／藤原良二

18年 米騒動

労働運動激化

1910年代後半
大戦景気により
工業が急発展するも
物価が高騰して
都市勤労者や
下層農民が困窮した

21年2月 東京で
第一回労務者講習会を
5泊6日の日程で開催し
軍と鉄道省の工場労働者
70人が参加した

19年
労使協調を目的に
政府 財界により
「協調会」が設立
されたが
労働側が参加せず
運営が混乱する

20年には
第一回メーデーが
開催された

頼むよ

労働問題の解決は
社会政策の徹底
によつて可能です
たい!

そんな中
洪沢栄一の要請により
常務理事に就任した
田澤は……



22年10月には
スイスで開かれた
国際労働会議に出席し
8時間労働 紡績女工の
住居改善などを主張した



講習会は民間工場にも広がり
講師として飛び回った

「労使協調の意義の自覚と
社会問題の知識習得」を
テーマに講習生と寝食を
共にした



国民の相互扶助の美しさと
一体となって復興に取り組む姿に
希望を見出し
道義の確立に努めることを
後半生の使命と感じた

天災避けがたく
人禍免れるべし



23年9月
関東大震災



田澤は被災者を
協定会館に收容するなど
救援に全力を尽くした



寄稿者には
後に公明選挙運動の
指導者となる
前田多門もいた

田澤はこの機を捉え
政治教育を目的とする
新政社の設立を構想
24年1月
月刊誌「新政」を
創刊した



時の山本権兵衛内閣は
政党との融和策をとり
普通選挙に前向きであった

加藤高明

犬養 毅

高橋是清

24年
第二次護憲運動が起き
5月の衆院選を経て
護憲三派による
加藤高明内閣が成立した

政治が現実の功利に墮して理想を失い
 政争は益々野卑低調に流れ
 党弊の浸潤は綱紀の弛緩と
 道義の退廃を期した
 心ある人々は政治に失望し
 これを罪悪視し容易ならぬ
 問題である
 公正な判断の基礎となる
 政治・社会知識を国民に
 普及することが急務である

8月に
 協調会常務理事を辞し
 10月には請われて
 東京市助役に就き
 復興に尽力した

有権者は買収請託の防止に
 努めなければならない
 不正に対する警戒
 違反への告発
 干渉への対抗処置等は
 もちろん
 候補者に立会演説を要求し
 政策を検討すべきである
 平素から後援会などにより
 政治的知見を向上させることが
 大切である

田澤は衆院選の機を捉えて
 選挙粛正の機関を作れと訴え
 理想選挙を実践すべく
 立候補したが落選

そして25年
 加藤内閣によって
 国民待望の男子の
 普通選挙法が成立
 することになる(注)

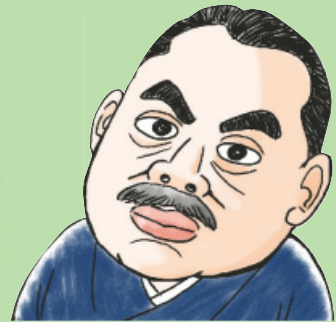
でもまだ
 女子には
 選挙権が
 ないのね...

24年10月 日本初の
 政治教育講習会を
 東京で開催すると
 その後全国各地で
 開催されていく

注……正式には衆議院議員選挙法の一部改正

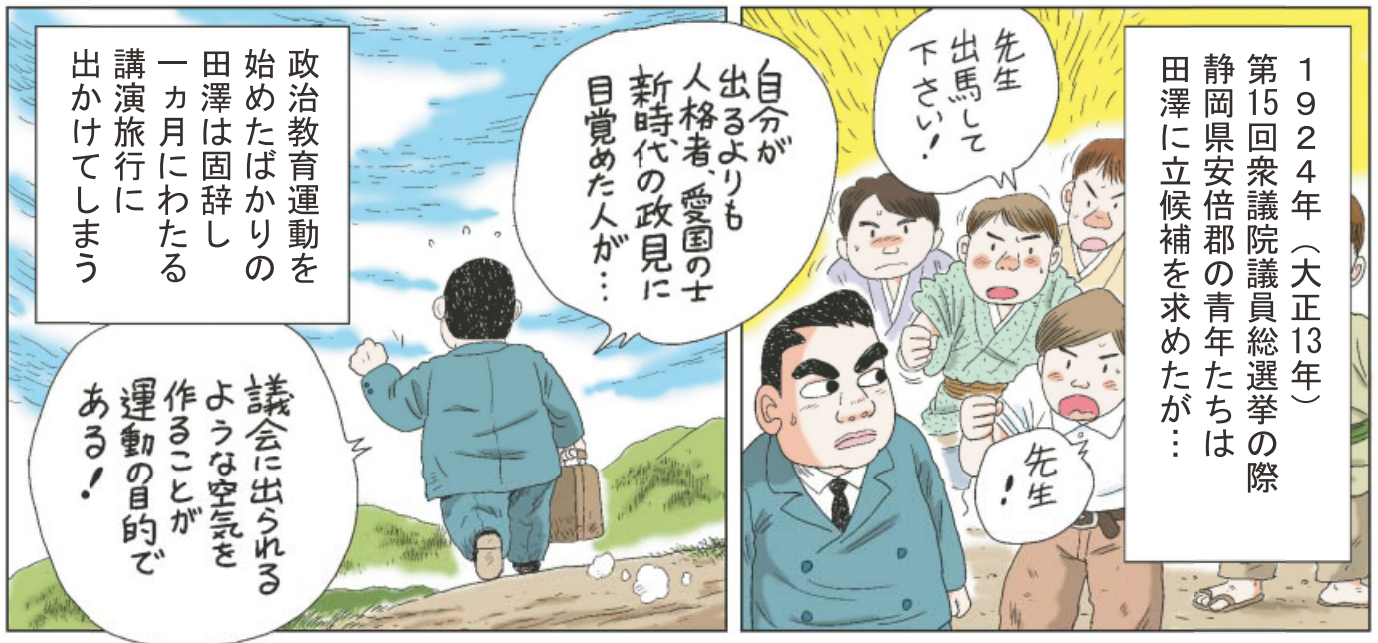
～この人を見よ～

た ざわ よし はる
田澤義鋪



第4回 理想選挙を戦う

画／藤原良二



彼は立候補の理由と政見を公表した

国民政治の確立を図るため……

第二に
普通選挙の
即行！

第二に
貴族院の
改造！

第三に
社会政策の
徹底的実行が
大切である！

手段のために
目的を誤っては
ならない

一票といえども
不正の陰影が
伴えば致命傷
である



必勝を期して
努力するが
政治粛正が
目的であり

議員と
なるのは
その手段
である！

当落は
この重大事
に比べれば
論ずるに
足りない！

地方問題で結束する
政党の堅陣に向かい
党の支援なく、
資金なく、
徒手空拳で理想選挙
を掲げて邁進する！

敗れたとしても
政治粛正の真心が
少しは社会を益する
と信じるのである！

選挙事務所は
質素なもので
二軒長屋の
八畳と四畳半の
二間で……

手弁当で駆けつけた
青年たちと二カ月近く
寝起きを共にした

有権者は
直接国税を
3円以上
納めている
男性のみで
国民の5.6%に
過ぎなかった

5.6%



戸別訪問が許されており一日二百軒位訪問した



夜はリヤカーで二、三カ所の講演会場を回った



応援に……

全国から激励の同志が来たが応援弁士は余り頼まず自身で政見を訴えた



対立候補は演説ではまるで歯が立たず買収工作が露骨になった



どうも

心配する運動員に対し田澤は一貫して買収や誘惑をしないように毅然とした態度を変えなかった



他陣営は買収を……

絶対にダメだ!

はい

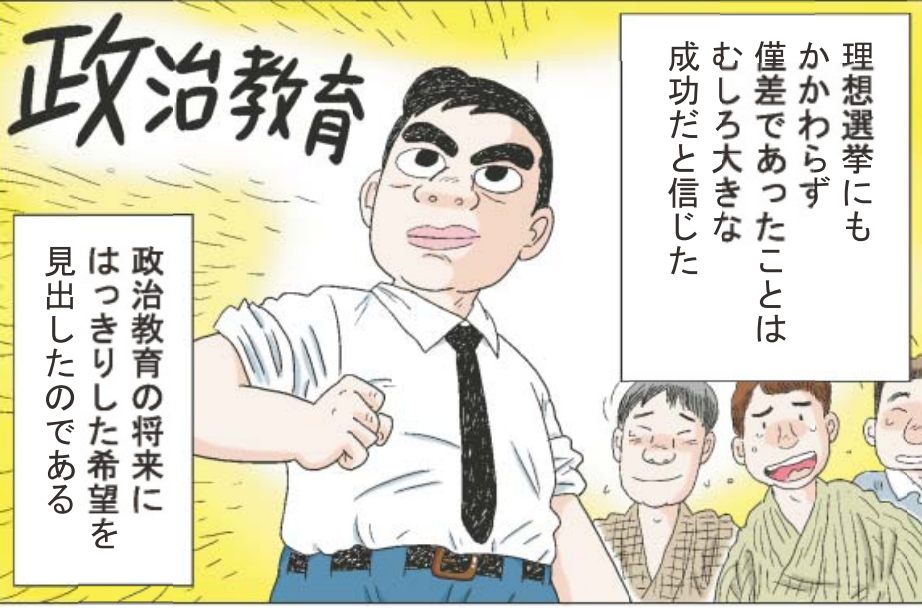
開票の結果二二六五票を得たが二五〇票差で次点であった

田澤義鋪 二二六五票 次点
二五〇票 当選



青年たちは泣いたが田澤は敗北とは思わなかった

理想選挙にもかわらず僅差であったことはむしろ大きな成功だと信じた



政治教育の将来にはつきりした希望を見出したのである

～この人を見よ～

た ざわ よし はる
田澤義鋪



第5回 立憲人の完成

画／藤原良二



青年団は郷土を背景とする青年期の共同生活であり、その運営は友愛と創造を基調とした自主的なものでなければならない!

田澤は神宮造営後1921年に日本青年館創立理事24年には大日本連合青年団創立準備委員長となつて尽力し青年団の父と呼ばれた



青年団の組織力に目をつけた軍部が青年団を軍事予備訓練機関にしようと計画したが断固として阻止した



26年に市助役を辞め政治教育運動に力を注いだ



東京市助役青年団と多忙を極めたが

辞めてすぐに
「政治教育講話」を
出版した



政党や選挙の意義と実態を踏まえ
政治教育の必要性と具体策を説き
その目的を立憲人の完成に
あるとした



政治教育運動の効果をあげるため
教育家や地方の篤志家など知識階級の多くが
政治に無関心で忌避してさえいる現状に対し
その反省をうながさなければならぬとした



同時に
これから政治の原動力と
ならなければならぬ少壮者と
準備段階にいる青年に
政治に関する正しい思想と
確固たる道念とを備え付け
なければならぬと訴えた

政治的意欲を鼓舞し
政治的情操を養う教育が
行なわれているところは
少ない



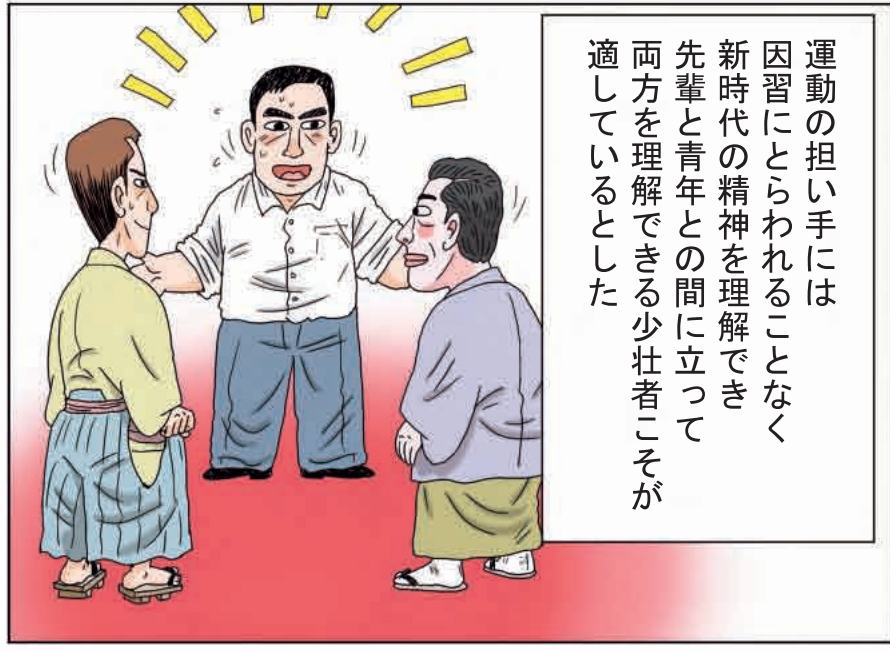
学校で行なわれている
公民教育は
乾燥無味な法制度の
知識学習に止まり



地方の中堅者が
自主的な団体を作ること自体が
政治教育であり
意義があると強調した



そのために
教育家 篤志家の指導により
自覚した少壯者を中堅とする
政治教育団体を各地に
各地の状況に応じて
作ることを提唱した



運動の担い手には
因習にとらわれることなく
新時代の精神を理解でき
先輩と青年との間に立つて
両方を理解できる少壯者こそが
適しているとした



本書が
何らかの貢献を
することを望みます
あるいは僭越のそしりを
まぬがれないかも
しれないが
これが私の衷心の願
いであります

資金がなくて
新聞広告を出す
ことはできないが
幸い強健五尺の身体と
熱誠三寸の舌を持っ
ている

これこそ
唯一最大の武器であり
大いに奮闘します！

……と
田澤は
講演 講習に
飛び回った

～この人を見よ～

た ざわ よし はる
田澤義鋪



第6回 虚空に矢を射る

画／藤原良二



会員は
次のような手紙を
候補者に送った

選挙で、私はあなたを我々の代表として
最適任者と信じ、投票しました。
あなたの選挙費用として〇銭を送金いたします。
訴えた政見を徹底的に実行してください。

同盟会は
浜口雄幸内閣が設けた
選挙改正審議会に
連座制の制定と
政治教育の徹底等を
建議した

連座制
政治教育の
徹底
選挙法改正

齋藤実内閣が設けた
法制審議会でも
選挙法改正を主張した



美濃部達吉

義務投票制に
すべし!

反対で
ある!

投票には有権者の
内面的な自覚の
裏付けがあるように
教育しなければ
ならない!

田澤義鋪

昭和10年 岡田啓介内閣が
各道府県に選挙粛正委員会を
設置したのを契機に、民間でも
同盟会、東京市政調査会など
14団体による「選挙粛正中央連盟」
が結成され、常任理事に就任した



パンフレットの配布
マンガ標語の懸賞募集
などの他、地域懇談会の
開催を呼びかけた

政治は徐々に不安定になる
昭和6年 満州事変
7年 5・15事件
8年 国際連盟脱退
11年 2・26事件

昭和5年と8年に計3回
青年団をテーマに
昭和天皇へのご進講を行い



9年には大日本連合青年団
理事長に就任した



田澤は2・26事件を
反乱であると捉えたが
軍部に否定的な態度を取ると
青年団の将来に累を及ぼし
また 自分の行動の自由が
制限されてはならないと考え
理事長を辞任した



昭和15年に大政翼賛会が発足し
政党が相次いで解散した



16年に太平洋戦争が始まり
17年には翼賛政治会が発足した

選挙粛正中央連盟も
加入を求められたが
田澤は断り
連盟を解散した



戦況悪化により
国民の不安が高まる中
田澤は 地域社会の
愛情を絆とする協力こそ
大事だと訴えた



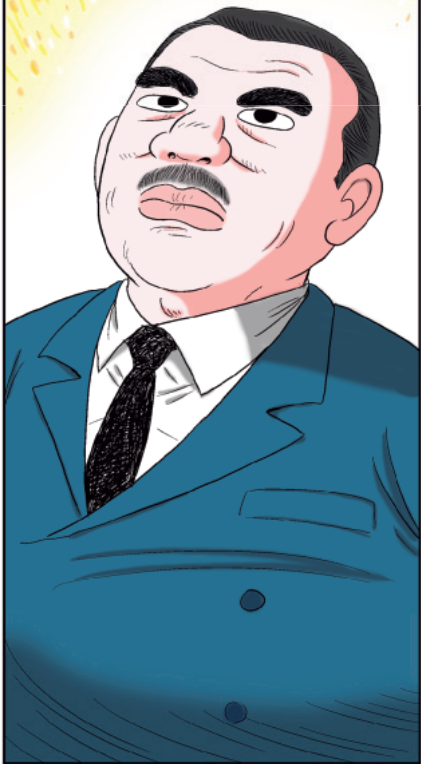
昭和19年 香川県善通寺で
戦争の勝利を信じている人たちに
敗戦を予告し 祖国再建の覚悟と
心構えに言及した



しかし
その場で脳出血に倒れ
同地で静養するも
59歳の生涯を閉じた



田澤は本来官僚であったが
立憲政治の完成を念願して
何の野心も私欲もなく
一生を選挙粛正と政治教育に
ささげたのである



あなたも賛助会員へ

田澤義鋪記念会はみなさまの浄財（会費・寄付金）で運営されています。お知り合いの方へ、是非会員のご紹介をお願いします。ご連絡いただければ早速関係資料を送らせていただきます。

<個人会員> 一口 金2千円以上

<団体会員> 一口 金1万円以上

お問い合わせ先

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町7番1号 日本青年館内

財団法人 田澤義鋪記念会

電話 03(3475)2500 FAX 03(3475)6605

ホームページアドレス

<http://www.nippon-seinenkan.or.jp/tazawa/>

郵便振替番号 00170-6-972303

図書案内

青年の父 田澤義鋪

永杉喜輔著 200円

田澤精神の伝道師永杉喜輔先生によって書かれた入門書。社会教育のテキストとして好適。

この人を見よ

—田澤義鋪の生涯—

下村湖人著 1,500円

「次郎物語」の作者、下村湖人による田澤先生の魂にふれることできる伝記文学の名著。

田澤義鋪選集

田澤義鋪著 5,000円

田澤義鋪が書き残した珠玉の名編をこの一冊に収録。政治を志す人、青年団幹部必読の書

関係団体

田澤義鋪を顕彰する団体は、田澤義鋪の出身地の佐賀県鹿島市にも（財）田澤義鋪記念館があります。生家跡地に1984(昭和59)年4月に発足し、地域の教育環境づくりと田澤精神の発揚を求めて活動しています。また、青年団活動出発の地となった静岡県にも顕彰会があり青年団のOBを中心に積極的な活動をしています。

（財）田澤義鋪記念館

〒849-1311 佐賀県鹿島市大字高津原434番地

電話 09546(3)1622

静岡県田澤義鋪顕彰会

〒410-0022 静岡県沼津市大岡南小林3400-5 鈴木庄七方

電話055(922)9007

2010年6月現在